

NO. 419
2026.4・5

CENTER NEWS



目 次

令和 8 年度 (2026 年度) を迎えるにあたって ～ AI の徹底活用～	八谷 誠…………… 1
2・3 月定例理事会	…………… 2
若手技術者体験会に参加して	澤口 理沙…………… 3
かいしゃたんぼうき (株)ヨコタテック)	…………… 4
【四方山話シリーズ】	
強度定数 c, ϕ の求め方・使い方 (第 2 回)	大島 昭彦…………… 6
委員の独り言	稲田 朋子…………… 9
編集後記	仲西 渉…………… 10

表紙説明

琵琶湖疏水（びわこそすい）は、琵琶湖の湖水を滋賀県大津市から西隣の京都府京都市へ流すため、明治時代に作られた水路（疏水）である。第 1 疏水（1890 年に完成）と第 2 疏水（1912 年に完成）を総称したもの。両疏水を合わせ、 $23.65\text{m}^3/\text{s}$ を滋賀県大津市三保ヶ崎で取水する。1 日 200 万トンの水が流れる。

国の史跡に指定され、施設は国宝・国の重要文化財に指定されている。また文化庁による日本遺産に認定され、土木学会選奨土木遺産に認定されている。疏水百選のひとつである。また、安積疏水（福島県郡山市とその周辺地域）、那須疏水（栃木県那須野が原）と並ぶ日本三大疏水のひとつと数えられる。 (稲田 記)

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%90%B5%E7%90%B6%E6%B9%96%E7%96%8F%E6%B0%B4>



令和8年度(2026年度)を迎えるにあたって ～A Iの徹底活用～

専務理事 八谷 誠

皆様、いかがお過ごしでしょうか。日頃より当センターの活動に対し、多大なるご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。おかげさまで、令和7年度の完成高は計画比105%を達成し、組合員への利用分量配当も25%と昨年度よりも多く配分することができる予定です。これもひとえに皆様方の絶大なるご協力のたまものと、深く御礼申し上げます。

現在、当センターでは2026年度から2028年度までを期間とする「第五次中期経営計画」を策定しております。5月の総会にて詳細をご報告する予定ですが、ここではその骨子をご紹介させていただきます。私たちは「組合員に、業界に、社会に、そして職員になくってはならない存在になる！」をモットーに掲げ、以下の5つの柱を目標に据えました。

1. **生産性の向上と業務効率化**：DX活用による業務管理システムの構築、および事務処理作業のICT化におけるAI活用の検討
2. **ミス・エラーの低減と品質管理**：チャットアプリの導入やチェック体制の強化
3. **技術継承と人材育成**：マニュアル整備やベテランの知見の体系的な継承
4. **受注拡大**：新規顧客獲得のための戦略的なPR活動
5. **土質試験技術者の地位向上**：データの戦略的活用や、AI・ロボット技術の適用を含む技術開発、ジオ・ラボネットワークへの参画

これらは、次代を担う若手職員たちの意見を積極的に取り入れたものであり、推進リーダーを中心にセンター一丸となって達成を目指してまいります。

さて、私事ではございますが、最近の関心事は「AIの活用」です。昨年からGoogle検索の代わりとして利用を始めましたが、現在は複数のサービスを試行錯誤しながら使いこなす「中級者」レベルに達したのではないかと自負しております。中期経営計画においても、技術開発や業務効率化の文脈でAIの導入を盛り込んでおりますが、私自身が「上級者」を目指して研鑽を積むことで、当センターの業務をより徹底的に効率化していくための牽引役（リーダー）となるべく目論んでいるところです。

新たな年度も、皆様の変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、何卒よろしく申し上げます。

令和8年2月25日(水)14時00分より、大阪キャッスルホテル会議室にて理事8名が出席して開催した。(理事1名欠席)

【報告事項】

- 1) 一般経過報告
- 2) 1月分事業報告
- 3) 第46期通常総会費用について
- 4) 中期経営計画について
- 5) その他の件
 - (1) 令和8年度の行事予定について

【審議事項】

- 1) 令和7年度決算予測並びに令和7年度概算余剰金処分(案)、役員・期末手当(案)について
- 2) 令和8年度職員給与改定について
- 3) 令和8年度予算(案)について
- 4) 令和8年度設備投資について

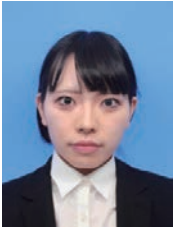
令和8年4月2日(木)14時00分より、大阪キャッスルホテルにて理事9名が出席して開催した。

【報告事項】

- 1) 一般経過報告
- 2) 2月分事業報告
- 3) その他の件
 - (1) 令和8年度土質試験体験会・講習会(若手・中堅)申込者について

【審議事項】

- 1) 令和7年度決算予測並びに令和7年度概算余剰金処分(案)、役員・職員期末手当(案)について
- 2) 令和8年度設備投資について
- 3) 組合職員賃金改定について
- 4) 令和8年度(第47期)収支予算(案)について
- 5) 第5次中期経営計画について
- 6) その他の件 議案無し



若手技術者体験会に参加して

興亜開発株式会社 関西支店 技術部

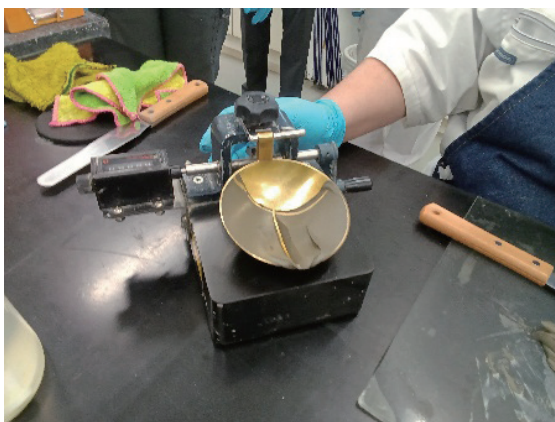
澤口 理紗

2026年4月17日に開催された、若手技術者室内試験体験会に参加させていただきました。日々の業務で試験結果のデータを扱うことは多いのですが、試験の様子を自分の目で見ること、実際に試料や試験器具に触れることにより、文献やデータシートの内容だけではイメージの難しい、試験の各工程での試料の扱い方について具体的に理解することが出来る貴重な機会でした。

本研修は土質試験の概要説明から始まり、その後、試験の体験・見学を行いました。試験内容に関する質問の機会もあり、初歩的な質問にも丁寧に回答いただけたこと、体験中に職員の皆様からのアドバイスや手助けをいただけたことにより、楽しく学ぶことが出来ました。

試験についての理解度が深まったこと、具体的なイメージが掴めたことは、目的に応じた試験の種類や試験に必要な試料量、試験結果の報告までに要する日数などを考える上で、業務の調整の際や、試験に関する説明を求められた際に大きな助けになることと思います。ここでの学びを今後の業務に活かしていく所存です。

最後に、本体験会を開催していただいた関西地盤環境研究センターの皆様、誠にありがとうございました。今後とも、何卒よろしく願いいたします。



←液性限界試験の様子。

実際に体験したところ、想像以上にコツと慣れが必要な工程が多く、印象に残っています。

かいしゃたんぼうき

株式会社 ヨコタテック

創 業 | 昭和 36 年 1 月 15 日
資 本 金 | 25,000,000 円
主たる業務 | 主に地質調査業、土壌汚染調査



〈インタビュー風景〉



強みトップ3

①対応の早さ

準備・段取りが早く、仕事の立ち上がりがスムーズ

②現場力と設備力

倉庫や設備等が整っており、効率的な業務が可能

③明るく活気ある社風

会話が多く、コミュニケーションが活発

Q

どのような仕事をする会社ですか



センター 高野

A

地質調査および土壌汚染調査を専門とし、現場作業から報告書作成までを行う会社です。

対応地域は近畿地方にとどまらず、青森など全国各地で現場作業を行っています。

Q

大変だったこと

A

現場ではボーリングを行っているときにコア箱を忘れてしまいました。採取した試料をビニールシートに置いて、コア箱を取りに戻るといったことがありました。

営業では見積もりの送り先を間違えてしまった事がありました。

Q

会社の強みはなんですか

A

会社付近に大型の倉庫があり、多くのボーリングマシンを保有しているためすばやく難工事まで自社で完遂できます。

業務効率化を進めることで夕方には多くの社員が帰路につき、子育て中の女性社員には育児休暇や時短勤務などの柔軟な勤務対応がある等働きやすい環境があります。



(株)ヨコタテック
井上さん

Q

組合員からみた
センターって
どんな印象ですか？



センター 仲西

A

私たちからすれば先生の様な感じ
です。色々な土質試験をおこなっている
ので、質問すればすぐに答えていただ
けます。少し難しい試験だと調べます
と言って、調べて答えていただけるの
でとても助かっています。

Q

センターのここがいい！

A

以前取引先のお客さんを連れてセンタ
ーを見学させていただいた時に、取引
先のお客さんに試験について理解して
いただいて、大変親密に取
引させていただいています。またお客さんを連れて
見学させていただきたいと
思っています。



(株)ヨコタテック
中村さん

Q

社内はどのような雰囲気ですか

A

「おしゃべりだが手はしっかり動く。」
という印象です。
事務・営業のフロアでは静かに過ごすこ
とも多いですが、現場班が帰ってくると
賑やかな雰囲気になります。
また、ベトナム人実習生と
も冗談を言い合ったりと和
気あいあいとした雰囲気
で、楽しい職場です。



(株)ヨコタテック
金光さん



〈会社での BBQ 風景〉

今回、(株)ヨコタテックさんへお伺い致しました。小路社長筆頭にとっても和やかな雰囲気
の会社だと感じました。コミュニケーションも皆さん取られており、私もセンターでコ
ミュニケーションを取りつつ仕事を進めていくように努力しようと実感いたしました。
ヨコタテックの皆様、お忙しいところお時間いただき誠にありがとうございました。



センター 仲西

社長の一言



代表取締役

小路 博之

株式会社ヨコタテックは、昭和36年の創業以来、地質調査業及び
土壌汚染調査を通じて信頼と実績を積み重ねてまいりました。

当社は、社員による直営班(協力会社含む)での現場作業から地質
の解析・とりまとめまでを一貫して行い、確かな品質と迅速な対応
を強みとしております。

現場を熟知した技術者が責任を持って対応することで、お客様に
安心していただける成果をご提供いたします。

今後もこれまで培った技術と経験を活かし、社会に貢献できる企
業として、より一層の努力を重ねてまいります。

引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



【四方山話シリーズ】 強度定数 c, ϕ の求め方・使い方（第2回）

顧問

大島昭彦（大阪公立大学名誉教授・特任教授）

1. はじめに

前回のセンターニュースから「強度定数 c, ϕ の求め方・使い方」について、2回シリーズで解説しています。前回（2025年8・9月号）は「強度定数 c, ϕ の求め方」について述べました。今回は「強度定数 c, ϕ の使い方」を解説します（前回から時間が空いて申し訳ありませんでした）。

皆さんは、斜面安定計算における「全応力法」と「有効応力法」はご存じかと思います。これは1960年代から学会で行われた「粘土の非排水条件でのせん断強度の捉え方」に関する論争に起因するもので、三笠正人教授（大阪市立大学、全応力派）と赤井浩一教授（京都大学、有効応力派）によって行われました（三笠先生は私の恩師です）。この論争は60歳以上の方はご存じかと思いますが、私が学会に初めて参加した1980年でもまだ続いており、せん断のセッションなどで、どちらかの先生が発言されると、両先生の議論が始まり、発表者はそっちのけで「さあ始まった」として参加者は聞いたものでした。この論争の詳しい内容を知りたい方は、参考論文1), 2)をぜひ読んで下さい。

2. 全応力法、有効応力法とは

全応力法は、斜面が破壊される前の全応力から中立の間隙水圧（静水圧、浸透流による水圧）を差し引いた「**有効な全応力**」（破壊前の有効応力）に基づいて、破壊時の排水条件（UU, CU, CD）に応じて $[c_u, \phi_u]$, $[c_{cu}, \phi_{cu}]$, $[c_d, \phi_d]$ の強度定数を使い分けて安定計算を行う方法です。なお、全応力法を中立の間隙水圧をも含んだ全応力に基づくものと勘違いされている方がいますが、土のせん断強さは中立間隙水圧を差し引いた有効応力に基づくのは当然であり、破壊前の有効応力（中立間隙水圧を差し引いた有効な全応力）によってせん断強さを規定するものです。

一方、有効応力法は、土のせん断強さは有効応力で決まるため、斜面が破壊する際に発生する間隙水圧 u_d （ダイレイタンスーによる）を考慮したすべり面上の有効応力を推定し、排水条件によらず、有効応力に基づく強度定数 $[c', \phi']$ を用いて安定計算を行う方法です。なお、有効応力法を全応力から中立の間隙水圧を差し引いただけの有効応力に基づくものと勘違いされている方がいますが、上記のように破壊時に発生する間隙水圧も考慮したものが正しい有効応力法です。

ここで、排水(CD)条件では過剰間隙水圧は0であり、一般に、 $[c_d, \phi_d] \equiv [c', \phi']$ （どちらも有効応力に基づく強度定数）であるため、両者の違いは基本的にありません。両者の違いは次の非排水(UU, CU)条件で現れます。

3. 非排水(UU, CU)条件での全応力法と有効応力法の違い

非排水(UU, CU)条件では、先に述べましたように、全応力法では $[c_u, \phi_u=0]$ と $[c_{cu}, \phi_{cu}]$ を、有効応力法は $[c', \phi']$ を用います。両者の考え方を、一面定体積せん断試験を例にして図-1に示します。図中の○が全応力法、●が有効応力法のせん断強さ τ_f を表します。なお、図中の u_d は破壊時に発生する間隙水圧（三軸 \overline{CU} 試験の場合）ですが、一面定体積試験では破壊に至る有効応力の減少量となります。

① **全応力法**: 圧密圧力 α で圧密された地盤の非排水せん断強度 s_u を CU 試験による τ_f を用いて、次式で求める方法です。

$$\tau_f = c_{cu} + \sigma_c \tan \phi_{cu} \quad (1)$$

なお、先に述べたように、全応力法と言いながらも σ_c 基準なので、全応力から中立の間隙水圧（静水圧、浸透流による水圧）を差し引いた破壊前の有効応力（有効な全応力）が基準となります。正規圧密粘土であれば、CU強度線が原点を通る直線となり、 $c_{cu}=0$ となるので、

$$\tau_f = \sigma_c \tan \phi_{cu} = (s_u/p) \sigma_c \quad (2)$$

ここで、 s_u/p は正規圧密域の強度増加率で、通常の粘土では1/3程度の値をとります。

② 有効応力法：圧密圧力 σ_c から破壊時に発生する間隙水圧 u_d （ダイレイタンスによる）を差し引いた破壊時の有効応力 σ' と強度定数 $[c', \phi']$ を用いて、次式で求める方法です。

$$\tau_f = c' + \sigma' \tan \phi' = c' + (\sigma_c - u_d) \tan \phi' \quad (3)$$

両者は τ_f をどう表現するか（強度定数をどう使うか）の違いであり、図-1中の○と●で示すように本来、両者の τ_f は等しいものです。

一見すると、有効応力法の方が理論的に整然としているように思えますが、実際の斜面が破壊する際に発生する間隙水圧 u_d を事前に推定できないので、通常安定計算ではCU条件での有効応力法は適用できません注1)。 $u_d=0$ として無視した場合（誤った有効応力法）は、 $[c', \phi'] = [c_d, \phi_d]$ であるので、CU条件に対してCD強度を用いることになり（図-1中の×）、せん断強さを過大に見積もり、危険側となります注2)。そのため、非排水条件では全応力法が一般に適用されます。さらに、斜面安定計算には排水条件を包括する4.の一般全応力法の適用が最適と考えられます。

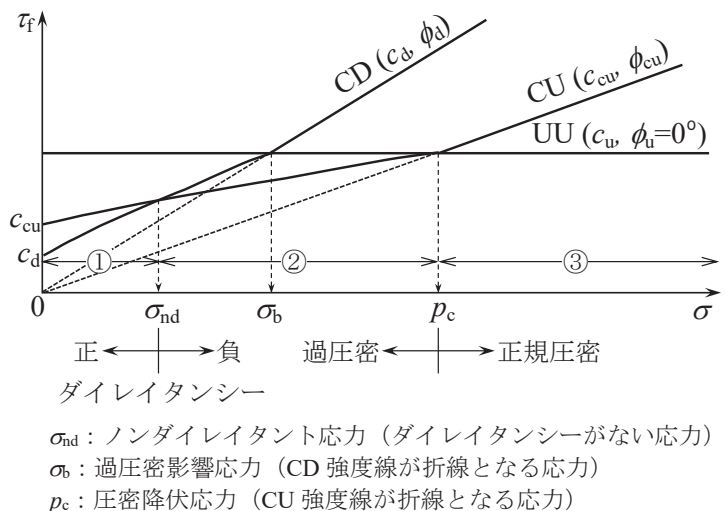
注1) 現在は土の構成式を用いたFEM有効応力解析によって破壊時に発生する間隙水圧 u_d を推定して、 $[c', \phi']$ を用いて斜面安定計算が行われることもあります。

注2) 過去の各種の基準や解説書では、「有効応力法ではせん断中の間隙水圧を考慮しなければならないが、推定が困難なため、通常無視して用いる」などという無責任な記述がなされた例がありました。

4. 一般全応力法の適用方法

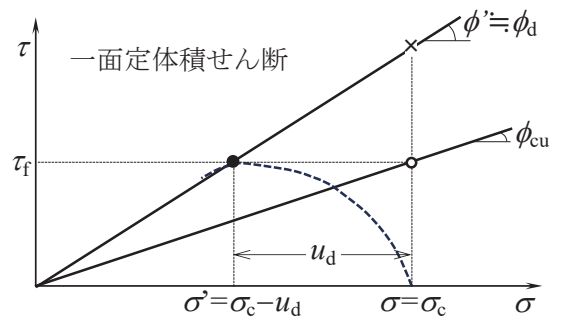
せん断試験における3つの排水条件、UU、CU、CDに対する強度線を図-2に示します。これは粘土の一面せん断試験結果として示していますが、三軸圧縮試験でも圧密圧力 σ とせん断強さ τ_f の関係にまとめれば、同様の関係となります。

三笠は、現場で起こり得る最も危険な（最も弱くなる）排水条件に対応した応力履歴と排水条件の下でせん断試験を行い、安定計算は得られた全応力に基づく強度定数を用いて行うことを提案しています^{1),2)}。すなわち、図-2に対して、

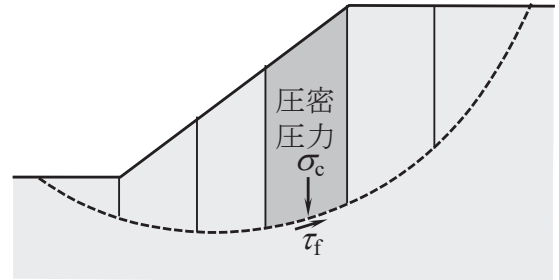


σ_{nd} : ノンダイレイタント応力（ダイレイタンスがない応力）
 σ_b : 過圧密影響応力（CD強度線が折線となる応力）
 p_c : 圧密降伏応力（CU強度線が折線となる応力）

図-2 3種類の排水条件に対する強度線²⁾



(1) 一面定体積せん断試験での強度定数



(2) 粘土斜面における応力

図-1 全応力法と有効応力法の違い

- ① $\sigma \leq \sigma_{nd}$: CD 強度, ② $\sigma_{nd} < \sigma \leq p_c$: CU 強度, ③ $p_c < \sigma$: UU 強度

を用いて行うものです。この方法は $\phi=0$ 法による短期安定問題(③の場合)や過圧密粘土斜面の長期安定問題(①の場合)なども包含し、種々の場合に広く適用できることから、**一般全応力法**と呼ばれています。ただし、破壊に至る時間に制約があれば、それに応じた排水条件を用いるべきで、例えば地震時にはほとんどの土が非排水条件となります。

5. 斜面安定計算での排水条件と強度定数

先の一般全応力法を踏まえて、斜面安定計算での安全率を計算する場合に用いるべき強度定数 $[c, \phi]$ は、土質と現場条件に合わせて次のように選びます。

5.1 砂・礫地盤

基本的に、排水(CD)条件の $[c_d, \phi_d]$ を用い、式(4)のフェレニウス法を適用すればよい(式中の c, ϕ は c_d, ϕ_d に置き換える。または $[c_d, \phi_d]$ の代わりに $[c', \phi']$ を用いてよい)。

$$F_s = \frac{\sum(W_i \cos \alpha_i \tan \phi_i + c_i l_i)}{\sum W_i \sin \alpha_i} \quad (4)$$

5.2 粘土地盤

- ① 盛土・切土直後(短期安定問題): 図-3

のB点のUU強度($s_u = c_u$)を適用する。ただし、過圧密粘土であれば、過圧密域のC点の $[c_{cu}, \phi_{cu}]$ によるCU強度をUU強度として適用する。

- ② 盛土後長時間経過(長期安定問題): 盛土による圧密を見込んで、図-3のA点の $[c_{cu}=0, \phi_{cu}]$ によるCU強度をUU強度として適用する。

- ③ 掘削後長時間経過(長期安定問題): 過

圧密化するので、図-3のC点の $[c_{cu}, \phi_{cu}]$ によるCU強度を適用する。ただし、掘削による除荷荷重が大きく、 σ_{nd} 以下となれば、D点の $[c_d, \phi_d]$ によるCD強度を適用する。

いずれにしても、粘土地盤ではすべり面上の垂直応力 σ_n (垂直力 $N = W \cos \theta$)を取る必要はなく、図-1(2)に示すようにすべり面上の圧密圧力 p (有効土被り圧)に応じて非排水または排水のせん断強さ s_u を取って、フェレニウス法では式(5)で安全率 F_s を算定すればよい。

$$F_s = \frac{\sum s_{ui} l_i}{\sum W_i \sin \alpha_i} \quad (5)$$

6. おわりに

今回の内容もやや難解だったかもしれませんが、詳細は参考文献3)を参照して下さい。

以上で、2024年から4回に渡って行いました「実用的なせん断試験とは」、「強度定数 c, ϕ の使い方」の解説を終わります。皆さんの参考になれば幸いです。

参考文献

- 1) 三笠正人: 粘土の強度の考え方について～ c', ϕ' 解析法の批判を中心として～, 土と基礎, Vol.11, No.3, pp.31～47, 1963.
- 2) 三笠正人: 土の力学における2つの視点について, 土質力学の展望～全応力法と有効応力法のアプローチ～, 土質工学会関西支部講話会, pp.19～33, 1978.
- 3) 大島昭彦: 土質力学, 大阪公立大学出版会, pp.123～156, pp.163～175, 2025.

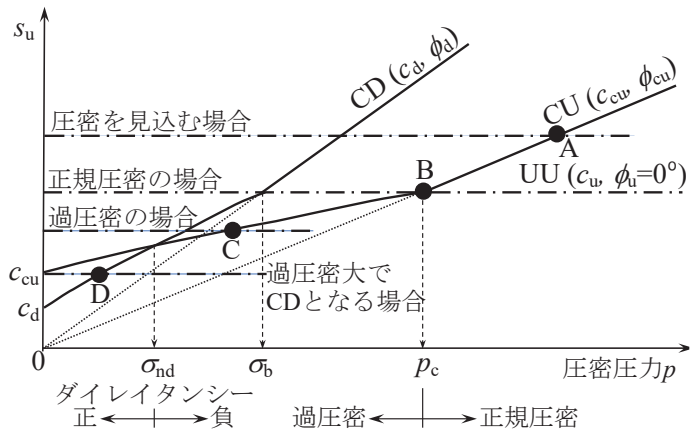


図-3 粘土斜面地盤での強度の取り方

委員の独り言

チャット GPT や Google では Gemini などの AI がありますが、ハリウッド映画でターミネータやアイロボットの映画を思い出してしまいます。「ありえない」が「ありえる」世界にかわりつつあり、少し恐怖を感じています。AI は使い方次第だといわれていますが、すでに戦争でドローンが使われだしていますし、人工知能が使われたらターミネータの世界が現実・・・とったりしています。

ハリウッド映画で「デイ・アフター・トゥモロー」や「ジオストーム」など凍りつく映画をみたらターミネータの世界から凍り付く世界にかわるのだろうかなど映画だから実際には起きないと思っていたことも、「ありえる」世界に代わってきています。

そう考えたら怖いと思うか、面白いと思うかですね。

スマホの Gemini は面白いです。「デスノートが欲しい」と入れたら、「フィクションです。実際にはありません。」って言われてしまいました。「デスノート発明して」と入れても「発明はできません」と返事されます。

私が誰の名前を書くかは秘密ですが（笑）愚痴りたいときに AI に愚痴ったら面白いかもしれませんよ。

皆様の AI はどういう風に育つのでしょうか？私の AI はたぶん将来「デスノート」を発明してくれると思っています（笑）

（稲田 記）



編集後記

★今回のセンターニュースは、「かいしゃたんぼう」のデザインがリニューアルいたしました。もう少し、写真を撮影する腕をあげたいなと感じています。

★若手技術者体験会に関しては私も新人だった頃に参加していました。あの時は一生懸命覚えるので必死でした。今も試験に関しては覚えることがたくさんあり大変ですが頑張っています。

★皆様、年度末も終わりゆっくりとする時間があるかと思いますが、体調管理は気をつけてください。

(仲西 記)



組合員・賛助会員名簿

【組合員名簿】

(50音順)

会社名	電話番号	会社名	電話番号
株式会社 アサノ大成基礎エンジニアリング 関西支社	(06)6456-1531	大日本ダイヤコンサルタント 株式会社 江坂オフィス	(06)6339-9141
株式会社 アテック吉村	(072)422-7032	株式会社 タニガキ建工	(073)489-6200
株式会社 池田地質	(06)6797-2280	株式会社 地域地盤環境研究所	(06)6943-9705
株式会社 勇コンサルタンツ	(06)6306-6907	株式会社 地圏総合コンサルタント 四国支店	(0897)33-3123
株式会社 インテコ	(0742)30-5655	中央開発 株式会社 関西支社	(06)6386-3691
株式会社 エイト日本技術開発 関西支社	(06)6397-3888	中央復建コンサルタンツ 株式会社	(06)6160-1121
株式会社 エス・ビー・シー	(0883)52-1621	株式会社 東京ソイルリサーチ 関西支店	(06)6384-5321
株式会社 エムアールソイル	(06)6195-6712	株式会社 東建ジオテック 大阪支店	(072)265-2651
株式会社 オキコ コーポレーション	(06)6881-1788	東邦地水 株式会社 大阪支社	(06)6353-7900
応用地質 株式会社 関西事務所	(06)6885-6357	土質コンサル 株式会社 大阪事務所	(072)634-6373
川崎地質 株式会社 西日本支社	(06)7175-7700	ニタコンサルタント 株式会社	(088)665-5550
株式会社 関西土木技術センター	(075)641-3015	株式会社 日さく 大阪支店	(06)6318-0360
株式会社 基礎建設コンサルタント	(088)642-5330	株式会社 日建設計	(06)6203-2361
基礎地盤コンサルタンツ 株式会社 関西支社	(06)4861-7000	株式会社 日本インシーク	(06)6282-0310
キタイ設計 株式会社	(0748)46-2336	日本基礎技術 株式会社 関西支店	(06)6351-0562
株式会社 キンキ地質センター	(075)611-5281	日本物理探査 株式会社 関西支店	(06)6777-3517
株式会社 KGS	(072)279-6770	ハイテック 株式会社	(06)6396-7571
株式会社 建設技術研究所 大阪本社	(06)6206-5700	株式会社 阪神コンサルタンツ	(0742)36-0211
興亜開発 株式会社 関西支店	(072)250-3451	阪神測建 株式会社	(078)360-8481
国際航業 株式会社 関西事業所	(06)7175-8733	ビューエンジニアリング 株式会社	(088)665-7360
株式会社 国土地建	(0748)63-0680	株式会社 復建技術コンサルタント 関西支店	(06)6266-2244
サンコーコンサルタント 株式会社 大阪支店	(06)6121-5011	復建調査設計 株式会社 大阪支社	(06)6392-7200
三正技建 有限会社	(0883)63-5401	双葉建設 株式会社	(0748)86-2616
有限会社 ジョ・ロジック	(072)453-1000	報国エンジニアリング 株式会社	(06)6336-0228
株式会社 白浜試錐	(0739)42-4728	株式会社 メーサイ	(06)6190-3371
一般財団法人 GRI財団	(06)6941-8800	明治コンサルタント 株式会社 大阪支店	(06)7178-1659
株式会社 ソイルシステム	(06)6976-7788	株式会社 ヨコタテック	(06)6877-2666
株式会社 大同ソイル	(0745)63-1850		

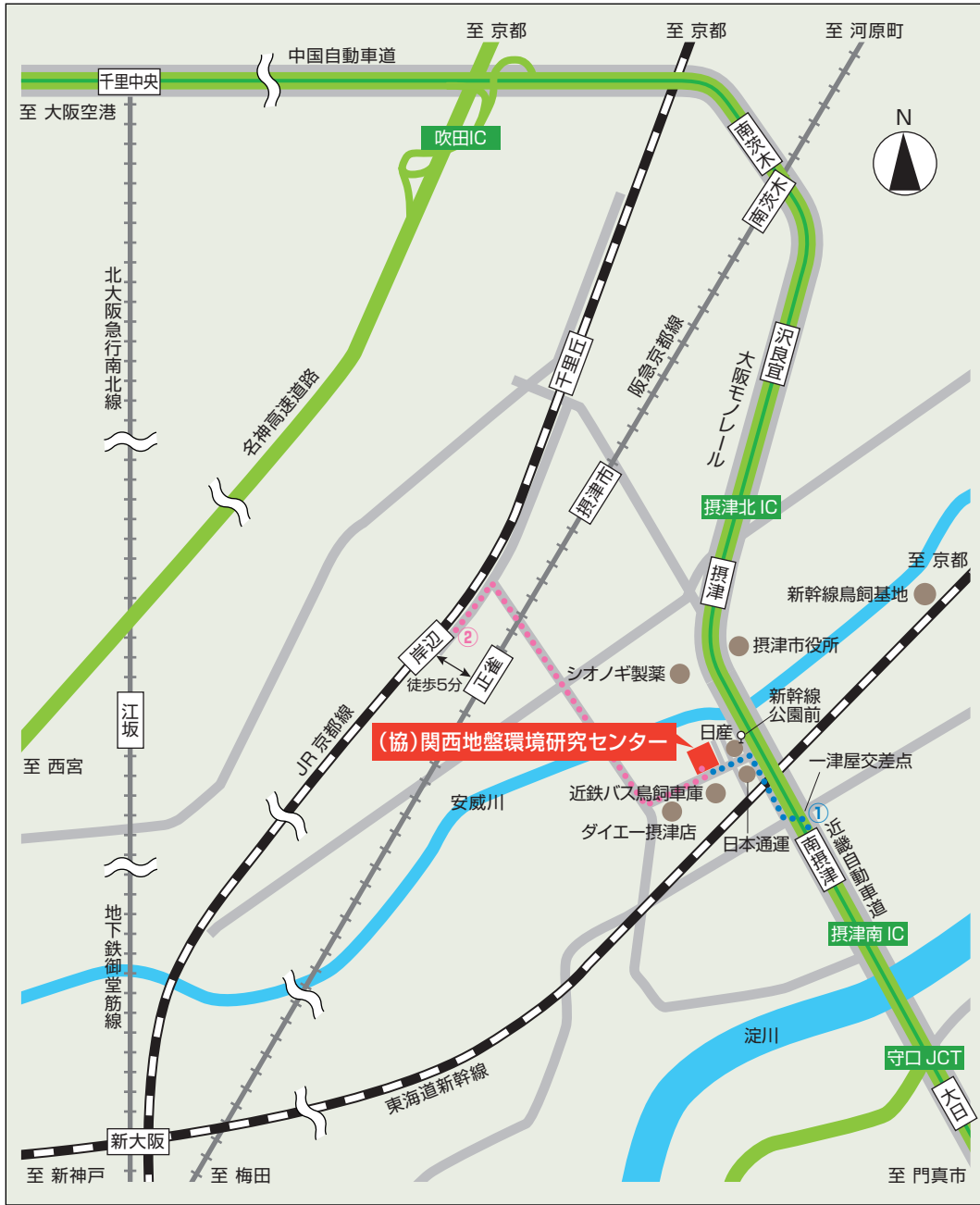
【賛助会員名簿】

会社名	電話番号	会社名	電話番号
株式会社 アーステック東洋	(075)575-2233	株式会社 ソルブレイン	(06)6981-3330
株式会社 JFDエンジニアリング	(06)6690-8353	株式会社 兵庫コンサルタント	(0799)28-1074
株式会社 創研技術	(088)652-0077	有限会社 ピュアソイル	(072)440-5137
株式会社 総合技術コンサルタント	(075)312-0653		

発行 協同組合 関西地盤環境研究センター
〒566-0042 摂津市東別府1丁目3番3号
TEL 06-6827-8833 (代)
FAX 06-6829-2256
e-mail info@ks-dositu.or.jp

編集 広報小委員会
編集責任者 八谷 誠
印刷 千里丘印刷

<https://ks-dositu.or.jp>



①南摂津駅(大阪モノレール)より徒歩12分 ②JR岸辺駅よりタクシーで約10分

新大阪駅より地下鉄御堂筋線に乗り千里中央駅でモノレールに接続、千里中央駅から南摂津駅まで21分

協同組合 関西地盤環境研究センター

〒566-0042 大阪府摂津市東別府1丁目3-3

TEL.06-6827-8833(代表)

FAX.06-6829-2256(地盤技術室)

<https://ks-dositu.or.jp>

